

EV 企業のスケートボードおよびプラットフォームアーキテクチャ戦略

【概要】

本調査では、EV 企業の将来のスケートボードおよびプラットフォームアーキテクチャ戦略について分析しています。具体的には、新しいビジネスモデルを通じた収益確保、プラットフォーム開発の共同アプローチによる投資軽減、モジュールによる車両への機能搭載、スケートボードプラットフォームとローリングシャーシの利点などが含まれています。調査対象地域はグローバルです。

【内容一覧】

戦略的重点

業界の概況

- 変化する環境：CASE コンバージェンス
- 電動化への注目
- プラットフォームベースの CASE へのアプローチ
- 3つの主要なプラットフォームタイプ
- EV プラットフォーム
- 既存の EV プラットフォームの種類
- プラットフォームの効率性

ビジネスモデルの概況

OEM ケーススタディ

- 競争環境：重点分野
- 競争環境：従来の OEM の重点分野
- GM の自動運転プラットフォーム
- Volkswagen の MEB
- REE のプラットフォーム

プラットフォームアプローチの促進要因

- プラットフォームの勢い：戦略的根拠となるコスト、テクノロジーへのアクセス、および市場投入までの時間
- アウトソーシングモデル：タイムリーで重要な知見へのアクセスを獲得するための OEM の暫定的な戦略
- Monet：完全に統合されたプラットフォームの例（プラットフォーム + E / E + S / W + 車両 + モビリティ OS）
- Silver Bullet：ハードウェアとソフトウェアをデータ分析機能とともに統合するプラットフォーム
- OEM / エンジニアリングコミュニティ：プラットフォームを使用したポートフォリオ伝達

プラットフォームアプローチの利点

- プラットフォーム戦略：コストと R&D 両方の提供とビジネスモデルのみの提供（たとえば、Maas）の比較
 - 最終製品：デジタルローリングシャーシ（電気駆動シャーシ）
 - 主要な目的：OEM が自動運転システムとフリートオペレーションの開発に専念出来るようサポート
- プラットフォームの Tier1 企業への影響

プラットフォーム採用の阻害要因

- 阻害要因：実現可能な最大市場規模（TAM）と規模の経済

TAM

Tier1 サプライヤーの役割

プラットフォームのブレーキシステムへの影響

プラットフォームのステアリングシステムへの影響

成長機会

次へのステップ